

平成 16 年度管理・運営に関する報告

特定非営利活動法人 古川学人

平成 16 年度は、活動の基本方針を 6 項目に集約して、記念館と市民との距離をより身近にし、当施設が有効に機能することを念頭に運営を行って参りました。

本年度の事業方針を柱として、6 項目の方針で行っており項目ごとに、以下の通り報告します。

1. NPO 組織の確立 (情報発信基地としての使命と役割)

イ、他団体との情報交換について

イベント事業等を通じて情報交換を行いました。誠真短期大学、NPO 支援センター、杜の伝言 (ゆるるボランティア市民活動等)

ロ、ロゴ・マークの募集と PR 事業について

ロゴ・マークについては、全国に向け発信し、9 月 1 日から 10 月 15 日まで募集しました。また、ホームページへの掲載、デザイン学校・市内の小・中・高・大学に PR 行いました、10 月 29 日に審査を行なった結果採用は鈴木寛様 (宮城大学生) に決定し、11 月 20 日に表彰いたしました。(この事業に関して、他の団体から協力を得る為に各職員が個別に団体を訪問し、10 社 (ダスキン・同和警備 等) の協賛協力を頂きました。

ハ、イベントを通じての PR 事業について

イベントの広報事業は古川市記者クラブ等 (河北新聞、大崎タイムス等) に情報提供を行いました。ホームページへの掲載、市内の小・中・高・大学・各郵便局・市の施設等に案内状を届け来館者数確保のため活動しました。結果は下記の通りです。

《 状 況 》

実施月日	イベント	参加者数
3 月 21 日から 4 月 18 日	新収蔵資料展	入館者延べ 500 名
5 月 3・4・5 日	GW イベント 2004	入館者延べ 1105 名
8 月 1・2 日	「ああ、なつかしの古川」	入館者延べ 148 名
1 月 29～2 月 27 日	ロゴ・マーク作品展	入館者延べ 221 名

ニ、職員のスキルアップ

イ、運営会議・イベント実施した中で、個々の職員のスキルアップが図れた。

(7月1日～31日教員の長期体験研修、8月17～22日には博物館実習生を受入れ各職員が担当し実習を行った事によりスキルアップが図れた)

ロ、防災マニュアルを作成し、地震発生時(11月)にマニュアルの実践をおこなった。

2、事業と事業の関連性や効果を持つ

一つの事業を行う際に、他との事業との関連性を検討し、より大きな事業展開をするように努める。

その一例として、記念館だよりに館長講座・受賞者講演会(読売吉野作造賞)等の広報事業を行いその中で適正な収益事業を展開するように関連性を持たせることにより、効果性の高い事業を行なった。また、事業終了後の振返りについては、成果と併せて問題点を洗い出し、今後の事業課題として取り組みを行なった。

3、適正利益の追求と事業利益

ロゴ・マーク作品募集事業では、今回10社に協賛協力をして頂きましたので、今後も個別訪問等を行いながら、つながりを大切にしていこうにします。

《収益事業》

イ、GW イベントなどの子供向けは、従来全てを無料としていたが、内容を充実させ有料で行ないました。有料にしてもお客様は満足しておりました。ラウンジでの販売(ジャージアイス、ソフトクリーム、その他)も充実しました。

ロ、ロゴ・マーク募集の協賛事業

ハ、「記念館だより」広告収入事業

4、情報館システムの活用

8月30日に図書蔵書検索「情報館システム」のパソコンを設置し、現在校正の段階にあり準備が整いしだい検索システムの活用に着手します。

5、特定非営利活動法人 古川学人の会員の拡大

会員の拡大を方針に掲げ、立ち上げ当初は17名で現在は増減があり18名。

6、記念館の管理

イ、空調の管理について

定期点検は、古川市の承認を取り精算項目として予算化をしている。

但し、空調に関して、今までに何のメンテナンスを行なっていない為、予想外の機能障害が発生している。今後この傾向は年数とともに共に益々発生することが懸念される。今回は徹底して検査と修理を行い正常に戻した上で、定期点検を行なうよう古川市と交渉しました。

ロ、常設展示室の展示ケースの改修について

8月30日、照度調整が出来る展示ケースに改修工事を行う。

ハ、電気設備の整備について

8月29・30・31日に館内のコンセントの増設工事と配線の設備工事を行う。

ニ、南門扉の新規取り付け

7月15・16日の2日間で南門扉の取り付け完了しました。

以上